# 会財政も“可視化”

監事　山田 博重（42 期）

昨年３月に発生した東日本大震災と原発事故を背景とする電力不足の影響，更には，金融危機への不安から，不透明な社会状況が続いています。

昨年４月の監事就任以来，週２回開かれる理事者会，月１回の常議員会・財務委員会・顧問税理士の月次伝票チェック報告等への出席，５月の定期総会に向けての監査報告の作成という例年同様の職務のほか，昨年，新たに実行した施策である東日本大震災への対応・東日本大震災「被災高校生特別義援金」・東弁メディアのツイッターへの関わり等が加わっております。

新たな諸施策は，会財政への負担が軽い割に，東弁の活動を外部に有効に発信出来る点で，監事冥利に尽きるところがあります。

監事が業務監査を行う体制で組織ガバナンスは機能しておりますが，東弁の活動が外部に発信され，外部から寄附や援助を受けるとなると，東弁を取り巻く状況も変化し，利害関係者へ財務情報を“可視化”することこそが，信頼を獲得するうえで重要となります。

東弁の財政規模から見て，日弁連のような外部監査や企業会計基準をそのまま適用していくのは難しいとしても，非営利法人に共通の会計基準に準拠する方向が，弁護士自治・東弁の自律的活動の維持・発展の一助になるものと思います。

# 私の課題

監事　末次 弘明（48 期）

私は，時間は未来から過去に向かって流れていると考えています。未来のことを予測して行動しても，その時点に行ってみたら当初の予測と全く異なっていることは日常茶飯事です。八王子で個人事務所を営んでいた５年前に，現在のように区内に事務所を持ち，東弁本会の監事を務めさせて頂くことになることは全く予測していませんでした。予測するときは過去を参考にするので，過去の延長線上の未来しか予測せず，それからはみ出た予測は通常行わないからでしょう。

東弁の予算も同じです。過去を参考に未来予測をして予算を立てます。予算立ては，無駄遣いをしないで，安定的に会を運営するためには不可欠な作業です。予算を組むことは歯止めです（無駄遣いの多い私には身にしみてわかります）。しかし，時間が流れてくると，当初予測していなかった事態が数多く発生します。のべつ支出を認めれば会の規律を失いますが，当初予測していない事態に臨機応変に対処できないのも会の運営に支障が出ます。両者を調整しなければなりません。我々の先輩は「事業関連費」という項目でこの調整をはかりました。過去と未来の間に位置する現在において発生する数々の問題について，この「事業関連費」というクッションをどのように活かすべきなのか。それが今の私の一番の課題です。